

未来の担い手

岐阜市立陽南中学校 2年
垣内 麻衣(かきうち まい)

「子どもは日本の未来を担っている」とか「子どもには無限の可能性がある」などの言葉をよく耳にします。私はそのような言葉を聞いた時に、大人も「子どもの未来を担っている」という自覚をもっているのかと疑問を抱きます。私自身、中学校に入学するまでこのような疑問をもったことは一度もありませんでした。なぜなら、家庭では習い事や部活動などのやりたいことに挑戦させてもらったり、学校では、学級委員や児童会活動などに挑戦することを応援してもらったりした経験があるからです。

しかし、そんな私の考え方を变える出来事がありました。それは、担任の先生と学校で会えなくなってしまったことです。私は昨年度、今の学校に通い始めました。右も左も分からず、先輩や先生方に支えられながら生活を送る中で、担任の先生の存在はとて大きなものでした。私たちが失敗をしてもアドバイスをしてくれたり、成功したときは一緒に喜んでくれたりと本当に信頼をしていました。そんな先生との生活が私に安心感を与え、夏休みまではとても楽しく生活することができていました。

そして夏休みが終わった初日。担任の先生はお休みでした。その時は「明日には元気に会えるだろう。」それくらいにしか思っていませんでした。しかし、それから何日経っても会うことはありませんでした。私の中で「夏休み後半に学校で会った時、『麻衣さん、久しぶり』と言って手を振ってくれたのに、どうして会えないのだろう。」と不安は大きくなっていきました。

そんな中で、新しい担任の先生に代わりました。その先生は、教科担任ではなかったため、ほとんど関わりのない先生で、私の不安は大きくなる一方でした。しかし、その先生から「担任の先生が戻ってきたときに、『自分たちだけでもこれだけ頑張ったよ。』という姿を見せてあげることが大事だよ。」と言われて、私は少しずつ前向きになることができました。

私はこのような経験を通して、大人が子どもに与える影響の大きさについて考える機会が増えました。もしかしたら、こんな経験でと思うかもしれませんが、私はこのことがきっかけとなり様々なことに目を向けるようになりました。その1つが、厚生労働省から発表された令和3年度の児童虐待相談対応件数です。結果はなんと約21万件で衝撃を受けました。さらにニュースや新聞でも「児童虐待」や「乳児遺棄」などの話題が取り上げられていることがあります。そんなニュースを見るたびに私は「どうして子どもの未来を奪うようなことをするのだろう」と胸が痛くなります。政治家の問題行動を取り上げたニュース。大人が罪を犯したというニュース。様々なニュースを見るたびに私の中でのもやもやとした気持ちは募っていきます。もっと身近なことに目を向けてみると「信号無視を平気でする大人、挨拶をしても返してくれない大人」を見たら、守らなくてもいい、挨拶をしなくてもいいと思う子がいるかもしれません。

このままではいけないと思います。

私はこのような経験から2つのことを決めました。

1つ目は、私自身が周りによい影響を与える大人になっていくための努力をしていくことです。私が経験してきたように、いつ、どこで私が周りに影響を与えるか分かりません。私を支えてくれている親や前向きな言葉をかけてくれる先生のように、私と関わる相手、未来の子どもたちが、未来を担っていこう、可能性を信じていこうと思える影響を与える大人になっていきたいです。

2つ目は、周りに影響されず、自分で正しい選択や判断ができる力を付けていくことです。情報社会の中で、簡単に様々な情報が手に入ったり、面識のない人と関わりがもてたりする時代です。受け身では、流されてしまうことがあると思います。そうならない自分であるために、今、目の前にあることに精一杯取り組むこと、相手の気持ちを考えて行動することを大切にしていきます。

みなさんは、「子どもの未来の担い手」として、どのように生きていきますか。